



本資料作成日
令和4年7月

活動前の住まい : 大阪府
活動開始時期 : 令和2年10月～

活動エリア : 倉敷・中心市街地
受入団体 : 合同会社 吉備のくに未来計画

日々頑張っていること

✓ オンラインでの情報発信

倉敷薄荷の魅力を発信するため、WEBサイトの改善や、SNSでの発信の強化、メディアでの広報などを進めています。薄荷の栽培の様子など、原材料の見える化と商品化までの過程を共有し、関心を持ってもらえるよう工夫しています。

✓ ワークショップの開催

ワークショップは、薄荷の魅力を伝えやすく、地域と薄荷をつなげる切り口を見つけることもできます。薄荷の精油づくりや蒸留体験、アロマミスト等の商品づくりなど、様々なワークショップを開催しながら、倉敷薄荷の魅力向上につなげています。



② 協力隊としての活動内容

④ 未来のいつ

これからの目標/皆さんへのメッセージ

✓ 社会課題への対応とブランディングの促進

薄荷の商品化にあたり、環境負荷の少ない手段を用いるよう心掛けています。商品の容器をプラスチックから再生可能なビンへ変更したり、耕作放棄地を活用した無農薬栽培を進めるなど、これからも社会課題と向き合いながら活動を行います。

また、倉敷の特産物として認知されるよう、薄荷の更なるブランディングを進めたいです。コラボ商品だけでなく、完成品の新商品を作るなど、倉敷薄荷の幅を広げて、生活の中で薄荷を身近に感じてもらうような工夫に取り組みます。



倉敷に移住した理由

✓ 住みやすい環境が魅力的

祖父母が生活していたため、幼少期から倉敷と縁がありました。倉敷は、自然を感じながらも、不便がなく、住みやすい場所だと思い、倉敷に移住して活動してみたいと考えました。

✓ 倉敷薄荷のポテンシャルに魅了

薄荷は倉敷の産業を支えた歴史があり、「誇りたい」と思うほど、薄荷のポテンシャルに魅了されました。学生時代に学んだ「環境保全と経済発展の両立」を活かしたいという思いと、倉敷の魅力向上に向け「企画と実行」にチャレンジしながら倉敷薄荷のブランディングに取り組んでみたいと思いがあり、協力隊の活動を開始しました。



楽しかった活動/チャレンジしたこと

✓ 他業種とのコラボ商品の開発

和菓子屋や漢方メーカー、衣料ブランドなど、多様な方々と連携しながら、薄荷を使ったコラボ商品の開発を進めています。薄荷だけでは思い付かない商品が生まれた時や、地域活性化への思いを持つ事業者同士が連携して取り組みを進める時などに活動のやりがいを感じます。

✓ 耕作放棄地の活用

契約農家さんの栽培だけでは生産量が不足し始めたため、耕作放棄地を活用して、自ら薄荷の栽培を始めました。水やりや草刈りなど、農地の管理は大変ですが、順調に成長する姿を見て、薄荷への愛着が深まっています。

